

## 研修のねらい

- コンプライアンスの定義・範囲を理解し、実行できない場合のリスクを習得します。
- 5W1H(What/Why/When/Where/Who/How)のスキームを当てはめることで、理解を促進します。
- コンプライアンス違反を予見するために職務を洗い出し、PDCAの考え方を習得することで、リスクが生じる前の段階で「客観的な問題」及び「管理職の課題」に気付くことができます。

まず最初に、当事者意識をもって研修に臨めるよう、コンプライアンスに関して、公務員には民間人と異なり、特有な規制と規範があることを理解します。

その後、コンプライアンスの必要性和効果を考えます。知っている法律と知らない法律があることに気付き、法律以外の領域もコンプライアンスに該当することを認識します。

また、リスクマネジメントについても学びます。現状を洗い出し、プロセスに違和感があつた場合の予防策を身に付け、コンプライアンス違反が生じない組織づくりをめざします。

本研修では、ペアワークや個人演習を行うことで、より当事者意識の醸成と理解力向上を図ります。

※ 下記の内容は一例です。ご要望にあわせてカリキュラムをご提案いたします。

## 半日コース

## 1. コンプライアンスの定義と職場不祥事の現状

- (1) 法治国家としての法構造
- (2) 服務規律・人事院規則の合理性
- (3) 公務外非違行為

◇ 演習 ◇  
「コンプライアンスチェックシート」

## 2. コンプライアンスを5W1Hで整理する

What: (目的)	コンプライアンスを実行する目的は何か
Why: (理由)	なぜ、コンプライアンスを実行しなければならないのか
When: (場面)	いつ、どのような場面でコンプライアンスが必要か
Where: (状態)	コンプライアンス徹底によってどうなるか
Who: (対象)	職員は当然、利害関係者まで対象範囲になるのはなぜか
How: (手段)	どうすればコンプライアンスを的確に実行できるか

## 3. コンプライアンス違反の防止と対策

- (1) 担当職務のプロセスを洗い出す
- (2) 現状と理想のギャップ(差)を見いだす
- (3) 考えられる最悪なイメージを考える
- (4) ギャップが生じている真因を考える
- (5) 具体的で効果的な対策を考え予防する

◇ 演習 ◇  
「コンプライアンスリスクの共有」

## 4. まとめ